

こんにちは。トリプルアイズの白石です。
いつもお読みいただきありがとうございます。

トリプルマガジンでは、当社の製品やサービスについてはもちろん、IT・AIに関する最新情報を発信しています。たまに社内の出来事もお知らせします。身近に感じていただけると嬉しいです。

さて今回のコラムは、「義務化施行まで1週間、アルコールチェック運用における“壁”を検証！」というテーマでお届けします。

トリプルニュースでは、

「トリプルアイズと中央自動車工業がサービス提供開始」

「AIZE Breath コールセンターと連携で24時間365日の有人確認」

「社内勉強会の様子をご紹介～ゼロフィールド代表による暗号資産勉強会」

についてご紹介いたします。

そして連載「アルコールチェック対策ウェビナーQ&Aをご紹介」では、随時開催しているアルコールチェックに関する法令対策ウェビナーの質疑応答でいただいた内容を抜粋して紹介します。

IT 批評では、

今月の特集記事「来るべき人とAIとのインタラクション 慶應義塾大学理工学部教授 栗原 聡氏に聞く」をご紹介します。

どうぞ最後までお付き合いください。

----- < 目次 > -----

1. 義務化施行まで1週間、アルコールチェック運用における“壁”を検証！
2. トリプルニュース
3. アルコールチェック対策ウェビナーQ&Aをご紹介
4. IT 批評
5. 編集後記

1. 義務化施行まで1週間、アルコールチェック運用における“壁”を検証！



いよいよ12月1日からアルコール検知器による検査が白ナンバー事業者に対しても義務付けられることになりました。ドライバーの皆さん、管理業務の皆さんは準備に忙しくされていることとお察しいたします。

当社では、2022年5月よりアルコール検知AIクラウドシステムをサービス提供してまいりましたが、実際にアルコールチェックの運用をスタートしたお客様から、さまざまなご相談を受けてきました。

これから導入する企業様の参考になると思いますので、アルコールチェックに関する**代表的な“運用の壁”**について解説していきたいと思えます。

壁その1：誤検知が多くて業務に支障をきたしている

これは、当日はもちろんのこと前日にもアルコールを摂取していないにもかかわらず、アルコールが検知されて困っているという事象です。アルコール検知器の乗り換えの際によくご相談を受けました。安価な半導体式センサーを用いた検知器でよく発生する事象で、アルコール検知器を日本で最も多く販売していると言われるタニタさんでは、半導体式を「家庭用」と位置付け、検知精度の高い燃料電池式を「業務用」と位置付け、用途を区別しています。

<https://www.tanita.co.jp/magazine/special-feature/4864/>

選定の目安としては、燃料電池式のセンサーを用いた機種を選ぶこと、あるいはアルコール検知器協議会が認定している検知器をチョイスするというのがまちがいないでしょう。

壁その2：管理業務が増大してたいへん！

これまで何もなかったところから、1日2回のアルコール検知器による検査、リアルタイムでの目視確認、検査結果の記入、記録の管理・保全などの業務が発生するわけですから、運転者はもちろんのこと、管理業務に携わる人の工数が激増しています。ここはぜひデジタルの力を借りたいところです。当社へのお問合せの理由ナンバーワンもクラウド管理できるシステムだからとなっています。クラウド管理なら、人の手が介在することで起こる記入ミスや記入漏れなども防ぐことができます。また、記録の管理・保全にも気を使わなくて済むのも人気の理由です。

壁その3：直行直帰や早朝深夜業務でリアルタイムの確認なんて無理！

アルコール検知器による検査義務化が通達されて以来、少なくない企業様を悩ませてきたのが、「有人確認」です。改正道路交通法では、12月1日からの検査義務化の内容として、

運転者の状態を目視等で確認するほか、アルコール検知器を用いて確認を行うこと

確認の内容を記録し、及びその記録を1年間保存し、並びにアルコール検知器を常時有効に保持することを明記しています。

「目視等で確認」とは、運転者の顔色、呼気の臭い、応答の声の調子等で確認することを指し、原則対面ですが、直行直帰など対面での確認が困難な場合にはこれに準ずる方法で実施することとして、以下の方法を認めています。

・カメラ、モニター等によって、安全運転管理者が運転者の顔色、応答の声の調子等とともに、アルコール検知器による測定結果を確認する方法

・携帯電話、業務無線その他の運転者と直接対話できる方法によって、安全運転管理者が運転者の応答の声の調子等を確認するとともに、アルコール検知器による測定結果を報告させる方法

モニターや携帯電話を使用するにせよ、有人によるリアルタイムでの確認が必要であることは間違いなく、早朝や深夜時間帯には安全運転管理者をはじめとした確認者の確保が困難であることから、これがハードルとなっている企業様も多く、相談が寄せられていました。

この課題を解決するべく生まれたのが、コールセンターによるアルコールチェック代行サービスです。これは、「運転前後の酒気帯び確認と記録業務」をコールセンターが代行するもので、運転者がアルコール検知器で検査をすると、記録がクラウドを介してコールセンターに送られ、電話でのリアルタイム確認がなされ

るというものです。器で検査をすると、記録がクラウドを介してコールセンターに送られ、電話でのリアルタイム確認がなされるというものです。

トリプルアイズとコールセンター代行のバディネット社が合同ウェビナーを開催！

前号でもお知らせしましたが、当社と電話による飲酒検査の代行サービスを提供してきたバディネット社がサービス連携を行うと発表したところ、たいへん大きな反響を呼びました。詳しく話を聞きたいという声をお寄せいただいたことから、合同でのウェビナーを開催することとなりました。

The banner features an orange background with white and red text. At the top left, it says '直行直帰に対応 アルコールチェック義務化 法令対策合同ウェビナー'. A red speech bubble on the right says '施行直前！'. Below this, the date and time '2023年11月29日 14:00~15:00' are displayed. A red box contains the text '参加費無料' and 'オンラインセミナー'. The bottom left shows a row of cars, and the bottom right shows an illustration of a man in a suit holding a smartphone and a coffee cup. Logos for 'TRIPLEIZE' and 'Buddy Net' are at the bottom.

タイトル：トリプルアイズ×バディネット アルコールチェック義務化法令対策合同ウェビナー

開催日：2023年11月29日（水）14：00 - 15：00

参加費：無料

開催方法：オンライン開催

お申し込み：お申込み完了後、こちらから Zoom ウェビナーURL をお送り致します。

主催：株式会社バディネット（<https://www.buddynet.jp/>）

株式会社トリプルアイズ（<https://www.3-ize.jp/>）

お申し込みフォーム：

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe4RDd3vBxD4ZTg7OwFN6cU63IGAIO_B2yk5jfy0PaI8z_FRw/viewform

ウェビナーの内容は、アルコール検知 AI クラウドシステム「AIZE Breath」のご紹介・デモ実演と、アルコールチェック代行サービスのご紹介がメインとなります。皆様のご参加をお待ちしております！

2. トリプルニュース

「トリプルアイズと中央自動車工業がサービス提供開始」



このたびトリプルアイズのAI顔認証によるアルコール検知システム「AIZE Breath」は、中央自動車工業のアルコール検知器「ソシアク・ネオ」「ネオ・ブルー」とシステム連携を開始しました。

中央自動車工業が開発・販売するアルコール検知器は、**官公庁、地方自治体、一般企業、さらには警察の飲酒検問・第一次検査用としても採用**されており、アルコール検知器協議会の**認定マーク**を取得しています。導入実績は約5万社以上、その実績と信頼性の高さが特長です。

顔認証AIZEと組み合わせることにより、なりすまし防止などより厳格な管理と業務の効率化が可能になります。

精度をお求めの方はぜひご確認ください：<https://www.3-ize.jp/information/3982/>

「AIZE Breath コールセンターと連携で24時間365日の有人確認」

サービス概要

検知器を使用後、ドライバー様は待つだけ。
簡単3ステップでアルコールチェックが可能です！



コラムでもご紹介させていただいたコールセンターとの連携、多くの反響をいただいています！

今回の連携により、深夜早朝、また休日や祝日に有人確認することが難しくお悩みを抱えていた企業様のお役に立つことができれば幸いです。ぜひお気軽にご相談ください。

施行日まで10日を切りました！ AIZE Breath : <https://aizebreath.jp/>

「社内勉強会の様子をご紹介～ゼロフィールド代表による暗号資産勉強会」



トリプルアイズでは、毎月社員による社内勉強会を開催しています。エンジニア社員が中心となり、最新のIT技術に焦点を当てた講義を行い、会社全体で技術力向上に取り組んでいます。具体的なテーマとしては、**XAI** や今話題の **AI 技術**、**GitHub Copilot** などがあります。

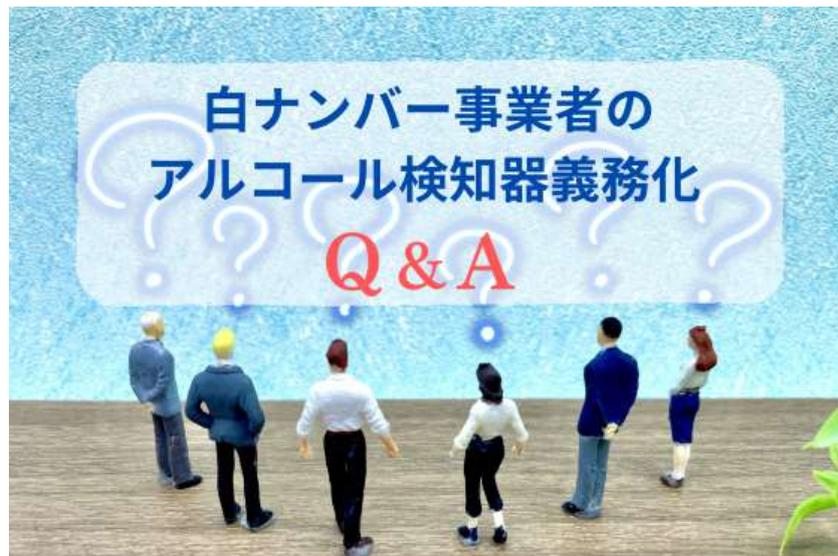
最近では、当社のグループ会社に加わったゼロフィールド代表による「**ブロックチェーンと暗号資産勉強会**」を開催。これまでにないテーマだったこともあり、多くの社員が参加しました。**ブロックチェーンとAIは親和性が高いもの**、これまで社内に専門家はおらず、ゼロフィールドが仲間に加わったことにより**会社の強みが拡大した**ことを実感しました。

以前にご紹介した通り、M&Aは事業成長に多くの利点があります。それと同時に社内にも**新しい風が吹き、良いシナジー効果が現れている**ことを感じます。

またときどき社内の様子をご紹介させていただきますので、どうぞ楽しみに！

3. アルコールチェック対策ウェビナーQ&A をご紹介

当社ではアルコールチェックに関する法令対策ウェビナーを随時開催しています。こちらでは質疑応答でいただいた内容を抜粋して紹介します。



Q：社員の車両を借り上げて業務利用している場合、アルコールチェックの義務化の対象になりますか？

A：社有車、レンタカー、持ち込みのマイカーにかかわらず、業務を行う車両は全てアルコール検査と記録の対象となります。「持ち込みのマイカー」とは、一時的な業務使用ではなく、車両等の使用者（事業主）が同車両を実質的に管理し、いわゆる社用車として運用するような場合をいいます。

白ナンバーアルコールチェックのウェビナー情報はこちら：

https://www.3-ize.jp/case/detail_20230612.html

4. 【IT 批評】 今月の特集記事

「来るべき人と AI とのインタラクション 慶應義塾大学工学部教授 栗原 聡氏に聞く」



ChatGPTをはじめとする生成AIは、多くの人々がAIを利用する「AIの民主化」をなしとげました。AIをめぐる百家争鳴の議論の中で、私たちはどこに立脚点をおくべきか。人工知能研究の第一人者として、人とAIとが共生する社会基盤を構想する慶應義塾大学の栗原聡氏にお話を伺いました。

慶應義塾大学工学部教授 栗原 聡氏に聞く

- (1) 来るべき人とAIとのインタラクション
- (2) AIにより変容するヒューマニティ
- (3) ポスト生成AIを考える

ぜひご一読を！ <https://it-hiyou.com/>

編集後記

今回も最後までお読みいただきありがとうございました。

隔週木曜日に配信しているトリプルマガジン、明日は祝日のため一日前倒しで配信させていただきました。「勤労感謝の日」。改めて、どのような意味が込められているのでしょうか？ 国民の祝日に関する法律の条文には、「勤労をたっとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう日」とあります。一人ひとりの勤労のおかげで、日々の経済が回っているんですね。皆様いつもお疲れ様です。明日はどうぞゆっくり過ごされてください。

それでは、次回のトリプルマガジンもお楽しみに！
